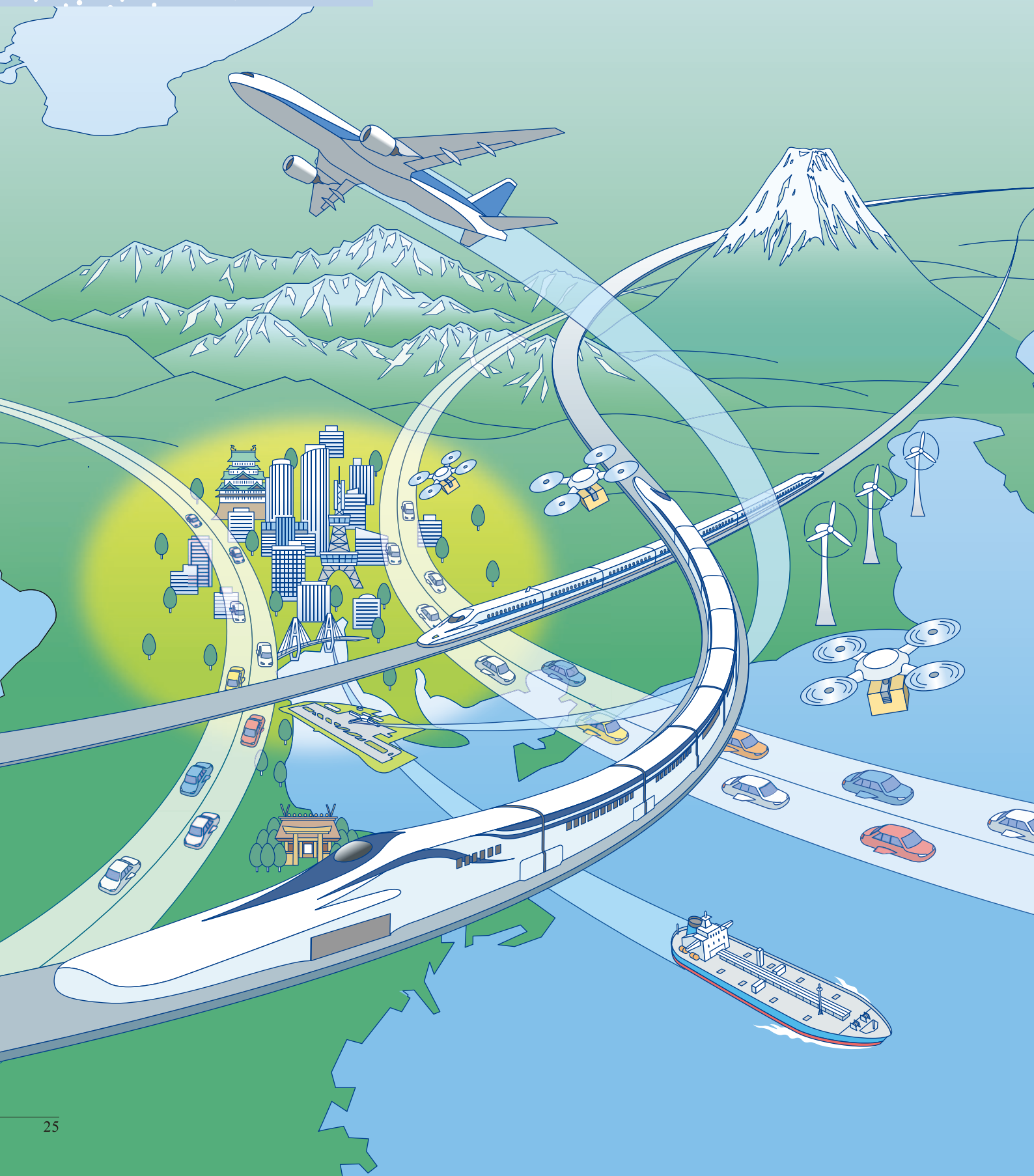


Section 3

# 中部圏の将来構想



## 2050年 中部圏の将来像と対応策

リニア中央新幹線を軸に形成された日本中央回廊によって東京に集中していた政治、経済の中核が中部圏や関西圏にも分散し、災害に強い多核連携型の国土構造が実現しています。また、リニア駅を中心とした先端産業の誘致や医療、教育の充実により中部圏への移住・定住が促進されるとともに地域独自の観光拠点を活かし、中部圏外からの来訪者が増加して地域間交流が盛んで持続性の高い圏域となっています。

広域道路ネットワークやドローンネットワークが円滑な人流と物流を支え、中部圏のどこに住んでいても豊かな生活を送ることができています。

道路や橋、駅前広場、公園等のインフラにはIoTが導入され、自立型AIによって天候や災害に左右されず、ストレスなく目的地まで移動できる交通ネットワークが中部圏の経済活動等を支えています。

名古屋港や中部国際空港は国際拠点化され、国内外のビジネス、観光客等は搭乗口を通過するだけでパスポートやチケットの提示なくストレスフリーに移動しています。

大規模地震・津波や気候変動に伴う大規模水害・浸水に対しては、各地域で建物の耐震補強や流域治水の取組みにより安全・安心が確保されています。

### 東京一極集中型から分散・多核連携型の国土構造の転換

首都機能として、一部の省庁や分室、バックアップ部署が名古屋市内及び近隣都市に移転・設置され、分散・多核連携型の体制となっています。また、リニアの整備を契機として地域生活圏における生活サービスの課題が改善しています。一方、リニア全線開通に伴い、東京や大阪等との交流が盛んな魅力的な地域づくりが進んでいます。

- 分散・多核連携型の国土構造への転換
- リニア拠点駅(名古屋)を生かした地域づくり
- リニア中間駅(中津川・亀山)を生かした地域づくり

### グローバルセンターとしての安全・安心な交通ネットワークの充実

高規格道路や防災施設の整備により、自然災害に対する安全・安心な生活環境が整っています。名古屋港や中部国際空港では災害対策や国際交流機能が向上し、新たな人の流れが創出され、経済活動が活発になっています。

- 災害に強い交通ネットワークの整備
- 新たな人の流れや広域な地域間交流のための基盤整備
- ものづくりを支える港の進化
- アジアのハブ空港として機能するセントレア
- 中部圏観光スポットへの移動支援

## 3.1 東京一極集中型から分散・多核連携型の国土構造の転換

### 3.1.1 分散・多核連携型の国土構造への転換

東京に一極集中していた国家機関や大企業の本社機能は、中部圏、関西圏に分散して日本中央回廊を形成しています。大規模災害やテロ行為等の脅威から国家機関の停滞を防止するとともに、各圏域の優秀な人材や優良企業と連携して国力を高めています。

#### ① 日本中央回廊を活かすインフラ整備の促進

日本中央回廊の形成により、多様なものづくり産業と、AI、IoT、ICT等、デジタル技術分野との融合により、総生産量の増加と高付加価値化を実現する産業の革新・創造拠点に発展しています。

- 総生産量の増加に伴い、生産物の輸送に必要な中部圏内及び中部圏と他圏域とを結ぶ高速道路ネットワークの形成及び多車線化
- リニア中央新幹線の開通に伴い増加が見込まれるクルーズ船及び航空機の移動需要に応える、名古屋駅と名古屋港、中部国際空港とを結ぶ高速道路、鉄道の強化

#### ② 多様な働き方を可能とする通信設備の整備

リモートワークやワーケーションなど多様な働き方に対する情報通信技術が進展しており、働く場所を選ばない就業環境が整備されています。

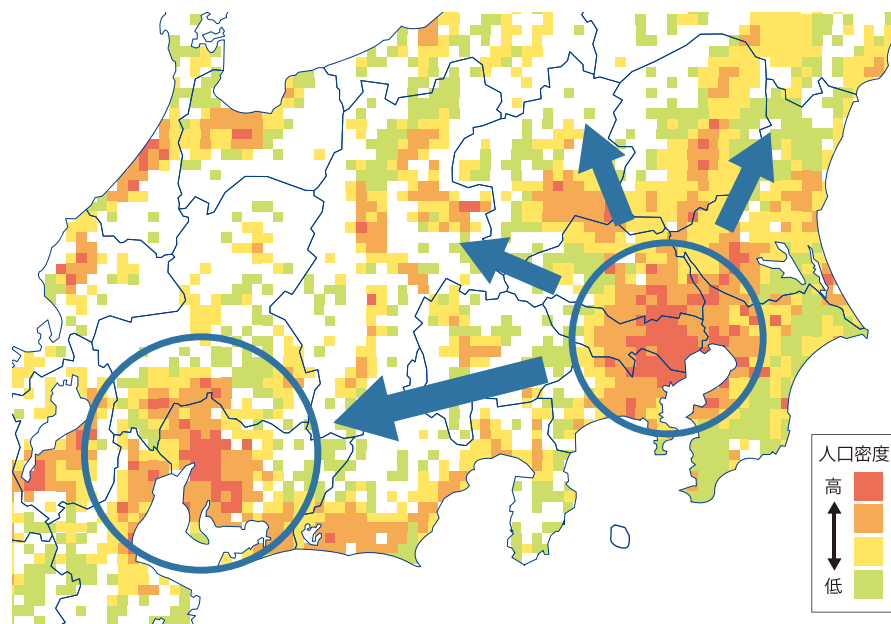
- 8G、さらにはBeyond8Gの次世代通信技術の研究開発
- 生産性の向上を実現するVR・AR・MR技術等の開発及び実装

#### ③ 都市部のバックアップ体制の構築

国家機関や大企業が中部圏内の主要都市に移転または一部機能や部門が配置され、バックアップ体制が構築されています。大規模災害やテロ行為等の発生時においても継続的な国家運営が担保された国土構造となっています。

- 国家機関や大企業が集積する利益を代替できる情報通信インフラの整備促進
- 企業の移転やナレッジ等の分散を促す税制優遇等のインセンティブの整備

東京一極集中型から分散・多核連携型の国土構造の転換



### 3.1.2 リニア中央新幹線の拠点駅(名古屋)を活かした地域づくり

リニア中央新幹線の拠点駅となる名古屋駅は、新幹線、在来線、地下鉄、バス、新交通を目的に応じて自由に選択でき、駅と地域拠点を結ぶ主要な交通ハブとして機能しています。名古屋駅周辺地区や栄地区等は、中部圏の中心拠点として新しい都市の魅力を発信しつつ、これからの世界の安定につながるエネルギー、食料、安全保障に関する国際機関や金融関連の情報センター等が立地しており、世界中から多様な分野の専門家等が集まる国際的な存在感を持つ都市として世界に認知されています。

#### ① リニア中央新幹線の開業効果を高める交通ネットワークの整備

リニア中央新幹線の開業による時間短縮効果を中部圏内全域に波及させるため、名古屋駅を起点とした高速交通網や二次交通システム等が整備され、ビジネス、観光、日常生活等において、自由に効率的な移動が支援されています。

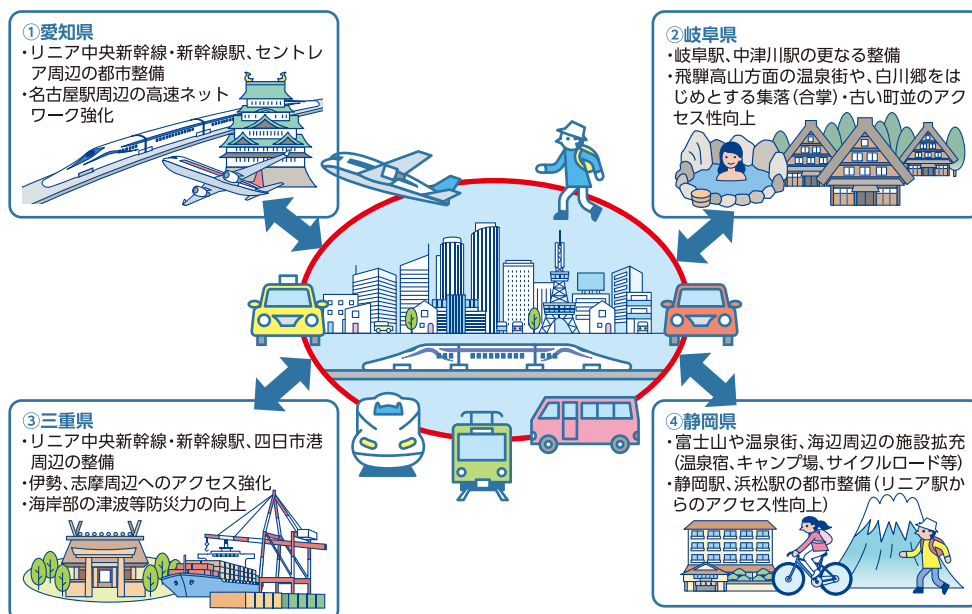
- 交通機関のシームレスな乗り換えを実現する料金システムの導入
- 利用距離に応じた適切な交通システムの開発
- 単なる移動だけでなく利用者の嗜好に合わせた新しいモビリティサービスの開発

#### ② ターミナル駅に相応しい都市機能の強化

リニア中央新幹線の開通に伴い、働きやすさと住みやすさが両立する機能が強化されたことにより、ビジネスと文化が融合した地域へと変貌しています。

- 新たな都市機能の導入(スタートアップ企業、政府、自治体などの組織がオープンイノベーション、ソーシャルイノベーションを創造し問題の解決を見つけ出すフューチャーセンター機能)
- インセンティブの付与による都市機能の誘導(容積率緩和等)
- 駅と街をつなぐ回遊性の創出(歩行者空間の拡大、緑豊かな空間の整備等)

リニア中央新幹線の拠点駅(名古屋)を活かした地域づくり



### 3.1.3 リニア中間駅(中津川・亀山)を活かした地域づくり

リニア中央新幹線の整備をきっかけとして、先端産業の研究センターや医療施設、教育施設等が誘致され、新たな雇用が創出されています。併せて、首都圏への通勤が可能となることで、移住・定住人口が増加し地域の活力が高まっています。また、地域固有の歴史や文化を活かして観光交流客数が増加しています。

#### ① リニア中央新幹線を活かした産業振興

リニア中央新幹線中間駅周辺では、多様な産業が共存しながら高い就業機会と経済的な繁栄をもたらしています。地域固有の強みを活かした産業が、これらを牽引しています。

- リニア中間駅周辺への国際的なビジネスハブの役割を果たす外資系企業や先端研究センター等の積極的な誘致
- 地域の特色や資源を活かした産業クラスターの創出

#### ② 防災体制の強化

首都直下地震や南海トラフ地震の震度予想が比較的小さい内陸部において、首都圏や臨海部への救援・救護体制の拠点や緊急時に被災者を受け入れる拠点として機能する施設が整備されており、安全と安心が確保されています。

- 自衛隊等の救援救護拠点となり得る防災道の駅の整備
- 緊急時における被災者の受け入れも想定した多目的複合施設の整備

#### ③ 暮らしの魅力向上

豊かな自然と最新の都市設計が融合した住環境の整備により、快適で魅力的な地域が形成され、移住・定住人口が増加しています。

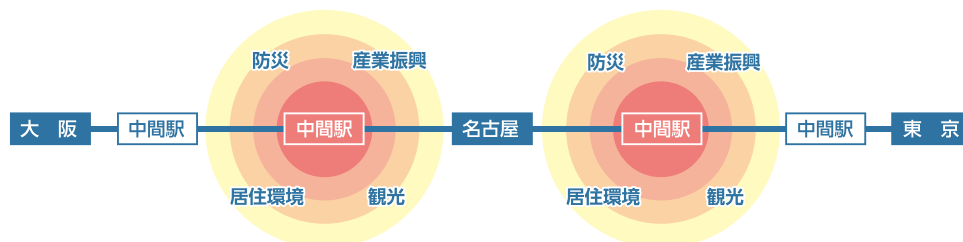
- 移住及び二地域居住ゾーンの整備
- 自然環境の保全や、地域の景観を考慮した都市計画の推進による景観の形成

#### ④ 広域観光の推進

リニア中間駅を起点又は経由地とした観光ルートが多数構築され、自動運転バスが運行されています。中山道の宿場町ではアンドロイドが歴史上の人物(松尾芭蕉等)や町娘の容姿で、地域の歴史の説明や観光案内を多国語で行い、国内外の観光客を魅了しています。

- リニア中間駅を起点とした各地域の観光スポットを結ぶ観光ルートの開発
- 多言語対応の観光情報の提供や外国人観光客へのマーケティングの強化

リニア中間駅を活かした地域づくりイメージ



## 3.2 グローバルセンターとしての安全・安心な交通ネットワークの充実

### 3.2.1 災害に強い交通ネットワークの整備

多数の人々が利用する道路や橋、鉄道駅、公園等にはIoTが導入されており、危険箇所や通行可能箇所等の情報が自動運転車両と同期して、目的地までの最適運行プランが生成され、いつでもスムーズな移動が可能です。高速道路は自立型AIによって管理され、シーズンを問わず適切に交通が管理されています。高速道路に落石等の障害物が検知されると、撤去車両到着までの間、自動的に可変中央分離帯を操作して片側交互通行に切替えて車両の通行を確保します。災害発生時は、道の駅やSA・PAを基地とする建設機械型ドローンが被災箇所に飛来し、自動的に災害規模を把握して必要な資材の調達や復旧を行います。中部圏から関西圏までを結ぶ新たな道路ネットワークが整備され災害時のリダンダンシーが確保されています。

#### ① 情報通信技術を活用した迅速な通行機能の確保

情報通信技術を活用して交通(道路)ネットワークを強化し、地震・津波・水害等の被災時でも迅速な通行機能を確保し、救助・医療活動や経済活動の継続に貢献しています。

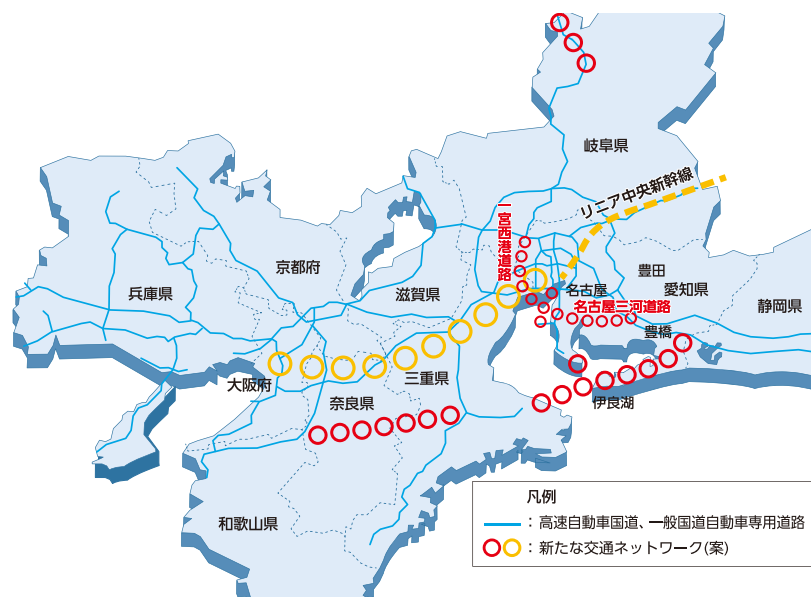
- 地震や水害等の被災情報を瞬時に収集するため道路や橋等へのIoTの導入
- 自動運転車両と道路等を同期して通行可能情報を提示する情報通信技術の開発
- 高速道路を管理する自立型AIの開発。高速道路の柔軟な車線活用を短時間で実現する可変中央分離帯の開発
- 自動運転により中部圏のどの被災現場にも飛来する建設機械型ドローンの開発

#### ② 交通ネットワークの機能強化

南海トラフ地震の揺れに耐え、一時避難場所としての活用や救援・救護、復旧・復興時における主軸として機能する新たな交通ネットワークが整備されています。早期の復旧・復興により人口流出を食い止め、地域経済の早期の回復に貢献します。

- 新たな東西軸の交通ネットワークの整備(陸、海、空による交通手段で接続)
- 北陸方面との南北軸交通ネットワークの強化によるリダンダンシーの増強

交通ネットワークの強化イメージ



### 3.2.2 新たな人の流れや広域な地域間交流のための基盤整備

既存の交通基盤・情報通信ネットワークを活用しつつ、進化した情報通信技術によって人と物の移動が円滑化・効率化しています。デジタル空間だけでは得られないリアル空間の魅力を引き出す仕掛けによって新たな人の流れが創出され、地域間の交流が活発化しています。誰もが利用可能な移動サービスが充実しており、高齢者などの移動制約者も気軽に出かけられる環境が整えられています。

#### ① 目的や嗜好に合ったお出かけ情報の提供

全てのインフラや交通の運行状況がIoTによって一元管理され、自立型AIによって個人の嗜好や目的に応じた、最適な移動手段やルートを瞬時に選択できるようになっています。

- デジタルインフラの整備 (光ファイバー、データセンター、8G、Beyond8G)
- 多数の人々が利用する道路や橋、鉄道駅、公園等へのIoTの実装
- データ連携基盤の構築 (国・地方間、地方・準公共・企業間などのサービス利活用に向けた構築)

#### ② 安全でスムーズな移動を実現する移動基盤

すべての車両が自動運転化され、高速道路や一般道路を走行する車両はIoTと連携して安全な走行が実現しています。

- 高規格幹線道路のミッシングリンクの整備、貨物自動運転専用レーンの整備、安全運転支援システムの開発、実装 (逆走防止、追突防止、速度超過防止)、全天候対応路面管理システムの開発
- 交差点部における出会い頭防止、飛び出し事故回避など、すべての交通モードの移動情報を一元化して最適化された交通管制システムの開発

#### ③ 移動サービスの充実

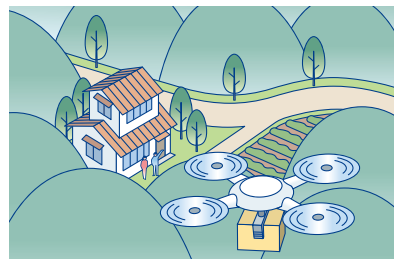
自動運転車両のシェアリングや自動運転バス・タクシー、ドローンタクシー (空中、水中) 等が普及し、いつでも、どこでも、だれとでも利用できる移動環境が整備され、都市部と地方部との利便性の差が縮小しています。

- 自動運転車両基地の整備、シェアリング車両が自宅まで自動配車
- 自動運転バス・タクシーの開発、ドローンタクシー (空中、水中) の開発、シェアサイクル、小型モビル、都市型ロープウェイの導入

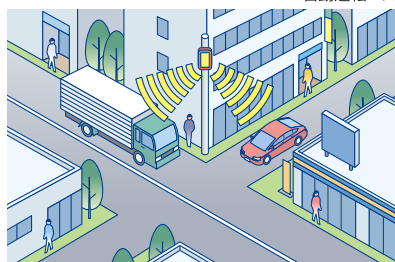
新たな人の流れや広域な地域間交流のための基盤整備イメージ



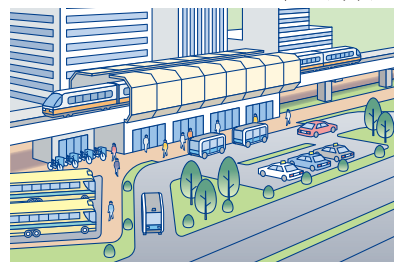
自動運転バス



ドローンタクシー



交通管制システム



自動運転車両基地

### 3.2.3 ものづくりを支える港の進化

ものづくり産業を支えてきた日本最大級の物流拠点である名古屋港は、商業施設やオフィス、観光地等の都市機能が加わり、新たな魅力を併せ持つ港として、国内外から訪れる観光客等を温かく迎えています。さらに、生物の生息環境や景観の維持・保全に取り組み、多様な生物が共存する持続可能な環境が整えられています。

#### ① 集客施設や観光客船受入環境の整備による賑わい空間の創出

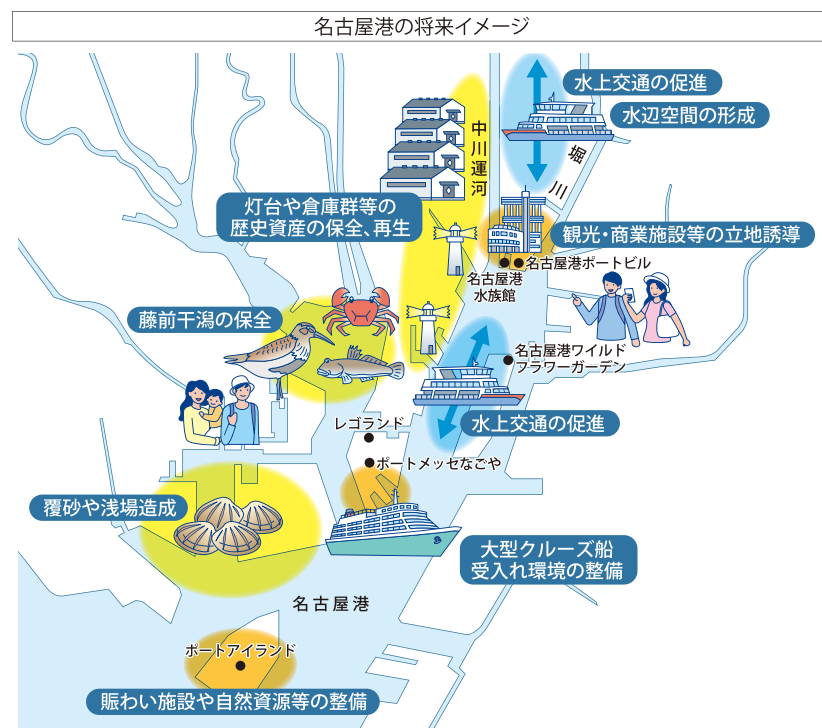
市街地と港がシームレスにつながり、文化・観光施設、生活利便施設、国際交流施設等が整備され、活気あふれるエリアが形成されています。また、入港手続きの完全自動化により、人流・物流ともに国際交流が活発化しています。

- 既存市街地に隣接するガーデンふ頭、金城ふ頭への観光・商業施設等の立地誘導
- 名古屋港、清水港、三河港、四日市港と連携した港ツーリズム
- 清水港の大型クルーズ船、スーパーヨットの受入環境整備
- ラグジュアリーリゾートの誘致
- 都心部と港の連携を強化する中川運河及び堀川における水上交通の促進

#### ② 周辺環境及び景観への影響を配慮した港湾空間の形成

生物多様性に配慮して既存の自然資源が適切に保全されるとともに、海域環境への負荷が軽減されています。また、港に関わる歴史資源の保存と継承が進められています。

- 藤前干潟の保全
- 覆砂や浅場造成、水循環等による底層環境及び水質の改善
- 緑地・プロムナードや護岸等の整備による水辺空間の形成
- 灯台や倉庫群、特徴的な橋梁等の歴史資産の保全、再生
- ポートアイランドを活用した自然資源等の整備



### 3.2.4 アジアのハブ空港として機能するセントレア

国際拠点空港「中部国際空港セントレア」は、日本の産業・物流、観光を支える空の玄関口として機能しています。インバウンド需要・最先端産業の発展を支え、航空需要の増加に対応して24時間稼働し、国際的なハブとしての地位を確立しています。また、災害発生時には救助救援の活動拠点として貢献します。空港利用者に加え、セントレア自体を目的地とした来訪客で賑いを見せています。

#### ① 我が国の物流・人流を支える『最先端のセントラルゲートウェイ』

セントレアは、日本の国際拠点空港である羽田・成田・関空、そして仁川・上海浦東・香港・チャンギ等の国際空港と並ぶ、アジア屈指のハブ空港として機能しています。また、中部圏が世界に誇る『自動車・ロボット・航空機産業』の輸出・発信拠点としての役割も担っています。

- 設備拡充：二本目滑走路の運用による24時間稼働の実現、航空需要の増加に応じた旅客・物流ターミナル整備
- 機能強化：DX導入による自動化で物流効率化・旅客利便性向上、空港の強靱化

#### ② 最先端のセントラルゲートウェイを支える「ハブ & ネットワーク」の強化・実現

日本のセントラルゲートウェイとしての更なる発展に向けて、大阪・名古屋・東京を結ぶリニア中央新幹線や北陸・伊勢方面へのシームレスな乗り継ぎを、最先端技術の積極導入により実現しています。これにより、日本中央回廊の好影響を最大限に活用し、常時機能するアクセス手段が確保されています。

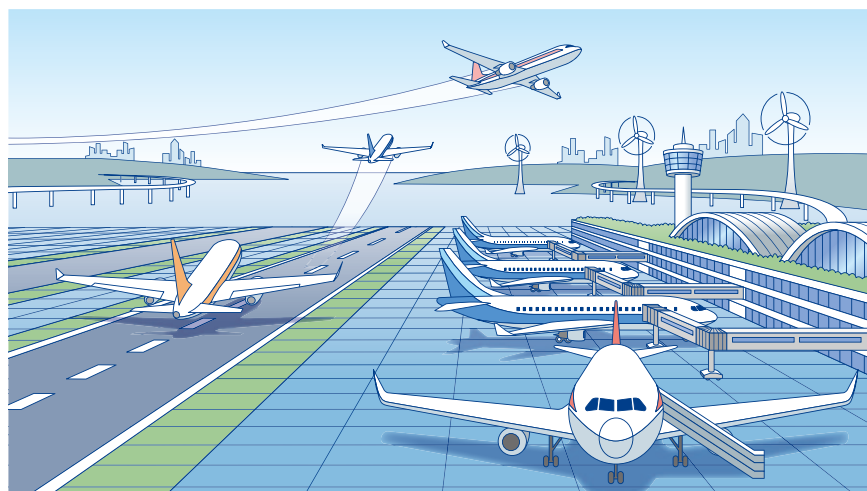
- 常時機能する道路ネットワークの整備：西知多道路・名古屋三河道路・一宮西港道路等
- リニア中央新幹線との結節強化：名高速名古屋駅アクセス整備・名古屋駅動線改良
- 新たなアクセス手段・拠点整備：空飛ぶクルマ・海上輸送・あおなみ線活用等

#### ③ GX・ゼロカーボンを実現する環境に配慮したゲートウェイ整備

中部国際空港は「セントレア・ゼロカーボン2050宣言」で、2050年までに空港の地上施設からCO<sub>2</sub>排出の実質ゼロを掲げ、エコ最先端の空港として、計画・設計・運営のあらゆる面から環境に配慮した空港を実現しています。

- 再生可能エネルギーの利用やエネルギー効率の高い設計の導入支援
- グリーンルーフや太陽光発電、風力発電等の空港設備への導入支援

アジアのハブ空港として機能する中部国際空港



### 3.2.5 中部圏観光スポットへの移動支援

目的地を伝えるだけで、自動運転車両が最適な運行プランを生成し、観光スポットまでスムーズに移動が可能です。リニア中央新幹線の開通によって、国内外の観光客は、日本を代表する観光都市を効率的に巡る「ゴールデンルート」を気軽に体験できるほか、これまで訪れたことのない魅力的な観光スポットを楽しむ新たな周遊スタイルも可能となります。

#### ① 個人の嗜好に合った観光情報の提供

全ての公共交通等の運行状況、観光スポットの混雑情報等がIoTによって一元管理され、自立型AIが個人の嗜好や目的に合わせた最適な観光ルートやプラン、スケジュールを提案します。それにより利用者は、楽しみながら柔軟に選択できるようになっています。

- デジタルインフラ整備 (光ファイバー、データセンター、8G、Beyond8G)
- 公共交通、観光スポット等へのIoTの実装

#### ② スムーズな移動や安全な走行を実現する基盤整備

高速道路や一般道路における路車協調システムの普及によって、自動運転車両による観光スポット間をスムーズかつ安全に移動できるようになっています。

- 自動運転車両に情報提供を行う路車協調システムや自動運転車両を安全かつ円滑に走行させるための道路空間の整備
- 安全運転支援システムの開発、実装 (逆走防止、追突防止、速度超過防止)、全天候対応路面管理システムの開発

#### ③ 観光スポット間の移動も魅力的にする仕掛けの創出

自動運転車両のシェア、自動運転バス・タクシー、ドローンタクシー (空中、水中) の普及により、観光スポット間をストレスなく移動できる環境が整備されています。

- 観光スポット間を巡る自動運転バス・タクシーの開発、ドローンタクシー (空中、水中) の開発
- 移動途中の景勝地案内、史跡、歴史文化や目的地の観光案内など、VRを交えた地域情報の提供システムの開発

